

FamilyMart



株式会社 ファミリーマート 御中

タイ王国 バンコクにおける子どもたちの防災意識向上プログラム
～都市部の災害リスク軽減のために～

完了報告書

(2014年4月1日～2015年3月31日)



2015年5月

公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
海外事業部



1. 事業背景

全世界ではこの10年間で急成長した大都市のトップ10中9位までをアジアの都市が占め、バンコクはこのうち第5位の大都市であると言われています。2000年からの10年間ではバンコクでは人口が45.2%も増加し、災害に対する脆弱さを増しています。2011年の大洪水の際には、都市における災害対策能力の低さと防災対策の課題が浮き彫りになると同時に、自然災害に対する都市の子どもたちの脆弱性が顕著に表れました。このことから、都市における防災対策に加え、特に子どもたちへの防災意識向上のための支援が急務となっています。

セーブ・ザ・チルドレンは2011年以降、防災リスク軽減のための事業にも力を入れ、特に学校における防災教育に焦点を置いてまいりました。これまでに自然災害の被害を受けやすいタイ西部や北部の5県で、合計100名以上の教育者に防災研修を実施し、子どもたち向けには、分かりやすい教材開発等を通じて防災リスク軽減のための知識向上促進の取り組みを続けてまいりました。本事業では、これまでの事業の経験を活かし、特に都市部バンコクにおける子どもたちの災害対策能力向上のための事業を実施しました。

2. 事業目的

自然災害において深刻な被害を受ける可能性の高い首都バンコク周辺において、コミュニティを巻き込んだ子どもたちの防災意識向上と災害への適応能力の強化を図る

3. 事業概要

支援対象地： タイ王国 バンコク首都圏、ノンタブリー県、パトゥムターニー県

事業期間： 2014年4月1日から2015年3月31日（1年間）

対象者： 合計1,483名（プロジェクト対象地域コミュニティ、児童）

※ 尚、前年度事業にて制作された防災教育アニメーションや、テレビによって紹介された今期の事業内容などを視聴した人々は全国で約1,223,199名あまりにのぼると試算されています。

4. 活動内容と成果

2015年1月から3月までの第四四半期の活動、及び1年間の活動のまとめ、また活動によって得られた成果を、以下の通りご報告させていただきます。

4-1. コミュニティベースの防災能力の強化

① 都市部のリスク査定ワークショップ

パトゥムターニー県ラングシット市にて、2014年8月7日・8日の2日間にわたり都市部の災害リスクの実態把握のためのワークショップを開催し、コミュニティリーダーや市役所の職員43名が参加しました。ワークショップにおいて、参加者は都市部の災害リスクの実

態把握の手法を学び、コミュニティの災害リスク軽減計画の策定を行いました。また、災害時に子どもたちが適切に保護されるように、誰が、どのような役割を担うべきかについての理解を深めました。

② コミュニティ災害リスク軽減計画案についての地域協議

ノンタブリー県パク・クレド市およびバンコクのプロム・スムリットコミュニティの行政関係者と協議を行い、既にコミュニティから提出されているコミュニティの災害リスク軽減計画案の検討を行い、計画の最終化に向け話し合いました。また、2014年9月から10月にかけて、パートナー団体である Youth Network Development(YND)とともに、各対象コミュニティを現場視察し、市や消防局関係者の参加を得ながら住民の生活状況や生活環境に関する調査を行いました。

③ コミュニティベースでの火災予防訓練

コミュニティにおけるリスク査定の結果、当事業の対象コミュニティにおける主な災害リスクは「火事」であり、コミュニティレベルで重要となる防災対策は防火対策と、火災を想定した避難訓練であることが分かりました。このことを受けて、各コミュニティは、市役所とバンコク消防局と協働しながら火災予防訓練を実施しました。これらの訓練では、特に子どもやお年寄りによる消火活動の訓練が重視されました。事項の表はこれらの訓練の実施一覧です。



消火訓練活動に参加するコミュニティメンバー
(ノンタブリー県 Bang Talad コミュニティにて)

実施日時	コミュニティ	参加者人数
2014年9月28日	パトゥムターニー県、Suk Kasem コミュニティ	31
2014年10月19日	ノンタブリー県、Bang Talad コミュニティ	104
2014年11月23日	バンコク、Prom Sumrit コミュニティ	62
2014年12月14日	ノンタブリー県、Pak Kred Ruamjai 9 コミュニティ	72
2015年1月25日	バンコク、Sri Karn コミュニティ	89
	合計	358

④ コミュニティでの火災避難訓練

本活動はまず、市の関係者とバンコク消防局の支援により、コミュニティ火災避難訓練計画が立てられ、コミュニティ委員会の参加の下、卓上演習が行われました。その後、市関係者、消防局、パートナー団体である Youth Network Development (YND)、そしてセーブ・ザ・チルドレンの指揮監督の下、コミュニティにおける火災避難訓練が実施されました。この訓練は、避難計画の検証ならびにコミュニティ委員会の避難訓練に関する理解促進を目的とし、子どもたちやお年寄り、そして防火対応関連の政府職員らが訓練に参加しました。下記は避難訓練活動の実施一覧です。

実施日時	コミュニティ	参加者人数
2015年1月18日	ノンタブリー県、Pak KRed Ruamjai9 コミュニティ	91
2015年1月25日	バンコク、Sri Karn コミュニティ	51
同上	バンコク、Prom Sumrit コミュニティ	74
2015年2月7日	パトゥムターニー県、Suk Kasem コミュニティ	69
	合計	285

訓練実施後には、活動の振り返りのためのセッションが行われ、協議の内容は今後の避難計画に活かされることが確認されました。

⑤ コミュニティにおけるリスク査定結果の市町村の災害準備計画への統合

2015年3月12日に、コミュニティのリスク査定結果ならびにコミュニティ活動からの学びを市町村の災害対策計画に盛り込むためのワークショップがバンコクにて開催され、対象コミュニティやバンコク消防局などから関係者が参加しました。各コミュニティは、災害リスク軽減のための行動計画と対策にかかる提言をまとめ、2015年4月にそれぞれを管轄する市に提出することを決定しました。

4-2. 地域の子どもグループの防災意識の向上と気候変動に対する適応能力の向上

① 都市部における子どもたちの防災キャンプ

2014年7月に2日間にわたる防災キャンプを2回実施しました。対象は9歳～15歳の子どもたち合計114名で、防災の定義や災害に関する実態調査の手法、家庭やコミュニティにおけるリスク軽減の方法を学びました。当キャンプの様子はマスメディアにも取り上げられ、タイ国営テレビ局のタイ公共放送サービス(Thai PBS)により、30分にわたり「災害に対抗する知識」というタイトルで紹介されました。このプログラムは、2015年3月14～18日に日本の仙台で開催された世界防災会議において、“災害リスク軽減ストーリーコンテスト”の準グランプリを獲得し、その内容が高く評価されました。

また、2回目のキャンプではセントラル・ファミリーマート・タイの社員の方もご参加下さり、子どもたちにお菓子と傘をプレゼントしていただきました。



防災キャンプにて熱心に活動する子どもたち



セントラル・ファミリーマート・タイの社員の方々には子どもたちにプレゼントもいただきました



タイ公共放送サービス)に防災キャンプの活動が取り上げられ、御社の認知度向上にも貢献

② コミュニティにおける防災意識向上のための子どもグループの活動

対象となるコミュニティの子どもグループは、防災や防火にかかるコミュニティの啓発のため、コミュニティリーダーと協働しながら啓発活動にかかる協議や提案、そして啓発ツール(ポスターやパンフレット)の作成を行いました。



作成した防災・防火の啓発ツールを披露する子どもたち

③ 学校主体の防火対策

前回の四半期報告書でも取り上げたとおり、2014年11月にパトゥムターニー県ランシット市の Duang Kamol 学校にて防火訓練と応急処置の訓練が実施され、教師や生徒など 319 名が参加しました。訓練後にはこの経験をもとに、ランシット市の協力を得て防火避難訓練計画を策定し、2015年2月12日にはこれらの計画にもとづいた火災避難訓練が実施されました。その後、セーブ・ザ・チルドレンの主催で、市の関係者と学校教師による訓練実施体験からの教訓を学ぶ会議が開催され、学校教師のさらなる知識の向上と訓練計画の改善に取り組みました。

4-3. 学術機関を通じた青少年の防災対策商品コンテストの開催

これまでの四半期報告書でもご紹介してきた防災アイデアコンテストですが、審査の末、ナンタブリー県 Sola Suksa 学校の生徒が考案した、洪水時に使用する「驚きのジャケット」がアイデア大賞に選ばれ、2015年2月28日にはバンコク芸術文化センターにて発表会が開催されました。発表会ではその他各部門の表彰者が発表され、応募された作品の展示も行われました。参加生徒58名はイベント会場内での活動や、災害リスクに関する経験を共有する各フォーラムへの参加を通して防災に関する知識をさらに深めることができました。当イベントにはセントラル・ファミリーマート・タイの社員の内田様にもご参加いただきました。また、当日にはタイ公共放送局の取材班も訪れ、2015年3月10日の防災プログラムにてこのコンテストの様子がテレビで紹介されました。



(写真左) セントラル・ファミリーマート・タイから内田様にご参加いただきました

(写真右) テレビでも紹介された防災アイデアコンテストの様子

4-4. 政策提言活動(アドボカシー)

セーブ・ザ・チルドレンは、学校安全ネットワークのメンバーの一員として、プラン・インターナショナルやワールドビジョン、ユニセフ、Right to Play、ケア・ファンデーション(タイではTaks Thai)とともに2014年10月と11月に各組織における活動の進捗を報告し、共有しました。セーブ・ザ・チルドレンは2015年における安全な学校プロジェクトをユニセフとの協働によって実施することに同意し、ユニセフに対して具体的な提案書を4月にも提出する予定です。

また、セーブ・ザ・チルドレンの当事業担当スタッフは教育省により開催された「安心・安全な学校作り(Comprehensive School Safety)」の枠組み推進のためのワークショップに司会進行役として参加し、将来的に教育省がこの枠組みを推奨していくよう、教育政策立案に携わる教育関係者などから構成される教育委員会に対して広く呼びかけました。「安心・安全な学校作り」の枠組みとは、教育における様々な危険からのリスクを軽減するための国際的なアプローチで、1)安全な学習施設の構築、2)学校における災害管理、3)リスク

削減・災害被害からの回復力(レジリエンス)についての教育、の3つを柱としています。セーブ・ザ・チルドレンではタイにおける次年度の防災プロジェクトにおいて本枠組みを積極的に提唱していきたいと考えております。



「安心・安全な学校作り」の枠組み推進のためのワークショップには 182 名の教育関係者が参加

5. 収支報告

項目	予算金額 (予算繰り越し後※)	支出金額
コミュニティベースの災害対策強化研修	1,727,112 円	1,978,767 円
子ども向け防災意識の向上と気候変動への 適応能力のための活動	1,083,666 円	1,106,376 円
都市部における防災対策商品のコンテスト	1,050,765 円	837,562 円
人件費	3,516,972 円	3,485,955 円
交通費、手当	342,441 円	357,643 円
タイ事務所運営費	809,263 円	763,916 円
日本事務所運営費	2,000,000 円	2,000,000 円
合計	10,530,219 円	10,530,219 円

※ 前年度(2013 年度)の防災事業から 530,219 円が繰り越しとなったため、その分の予算が増額されています。

6. まとめ

バンコク首都圏におけるコミュニティと子どもたちを対象とした防災意識と能力向上のための 1 年間の事象が完了しました。本事業は地方自治体やパートナー団体である Youth Network Development (YND)との密接な協働により進められました。コミュニティにおけるリスク審査や防災・避難訓練からの学び、そして子どもたちからの声は、事業での活動を通じて各地方自治体の関係者と共有され、各地域の防災計画の策定過程で活用されることになっています。今後、セーブ・ザ・チルドレンでは防災教育を正規の教育課程に組み入れることを目指しつつ、教育現場を活用しながら参加型で子どもたちの防災意識を高める取り組みをしていく予定です。本事業へのご支援、誠にありがとうございました。

以上